

**Proposal to redevelop tourist districts by combination of circulation and views.
- through the three competitions -**

Department of Infrastructure System Engineering

1185098

Rentaro OKADA

Abstract

In recent years, several tourist districts for tourist where many people used to visit is going to be planned to rebuild or redevelop, because the number of tourists is decrease. Such districts has various problems, for example, lack of waiting apace for tourist, the mixed route for pedestrians and cars, no uniformity townscape, and more.

However, there are no effective methods at present. Proposal to redevelop tourist districts by combination of circulation and views.

These purposes are proposed through three competitions.

1. Competition for making Mt.Sampoazan base of tourism

Proposal of the Botanical Gardens with open view.

Flow type : Circulation type

View type : soma landscape view and some activity view

2. The International urban planning competition for Miyajimaguchi area

Proposal of the district including view of Miyajima and Seto Inland Sea.

Flow type : Free

View type : soma landscape view and some activity view

3. The base design planning proposal for base facility on the Mt. Yashima

Proposal of the visitor center with panorama from Takamatsu City to Seto Inland Sea.

Flow type : Circulation, Free

View type : soma landscape view and some activity view

Keyword: tourist spot, view, redevelopment

2015年度 修士論文
眺望の組合せによる観光地再整備の提案
-3つの設計競技を通して-

社会システム工学コース 1185098

岡田 廉太郎

目的・構成

近年、高度経済成長期、バブル期に造成された多くの観光地において、施設の改修や補強、建て替え、又、地区自体の再整備を行う機運が高まりつつある。

再整備される観光地の多くでは、観光客の滞留スペース不足や歩車混同した動線、不揃いな町並みなど様々な課題を抱えている。しかし現状、そのような多様な課題を抱えた観光地に対する再整備手法は確立されていない。

そこで本修士設計では、観光地再整備に向けて具体的なデザインを行いながら手法を考察し、観光地再整備のための仮説を提案することを目的としている。

本修士設計の構成は以下の通りとなっている。

1. 三宝山観光拠点化構想策定業務コンペティション

三方に開かれた眺めを有する敷地特性を活かした有用植物園の提案

- ・ 回遊型動線
- ・ いくつかのランドスケープビューとアクティビティビューの組合せ
- ・ パノラマ状のランドスケープビューが主となる

2. 宮島口まちづくり国際コンペティション

宮島、瀬戸内海への眺めを地区に取り込んだまちづくりの提案

- ・ 広場型動線
- ・ いくつかのランドスケープビューとアクティビティビューの組合せ
- ・ ビスタ状のランドスケープビューが主となる

3. 高松市屋島山上拠点施設 基本設計業務プロポーザル

讃岐平野から瀬戸内海へと移り変わる眺めを取り込んだビジターセンターの提案

- ・ 広場型、回遊型動線
- ・ いくつかのランドスケープビューとアクティビティビューの組合せ
- ・ パノラマ状、ビスタ状のランドスケープビューが主となる

4. 眺めの組合せによる観光地再整備について

設計競技における具体的な課題解決を行うことで見えてきた観光地再整備の手法について考察し、観光地再整備のための仮説の検証、提案を行う。

三宝山観光拠点化構想策定業務コンペティション

コンペ趣旨

高知県香南市は、絵金蔵や県立のいち動物公園、ヤ・シィパークなどの個性豊かな観光スポットをはじめ、冬の夏祭りや佐古祭りなど、地元商店街や地域の住民力を活かして行われる個性的なイベントを通して、訪れた人たちが地域との交流を楽しめる機会をつくることで地域の情報発信力の強化に取り組んでいる。

こうした中で、土佐湾や高知平野が見渡せる優れた景観を有し、観光・交流拠点として高いポテンシャルを有している三宝山は、現在、山頂の施設ゲートを閉じており、城の中でいたずらをしたり、敷地内の道路で走り回る人がいるため部分開放も難しく活用できていない。

そこで今後、香南市をはじめ、高知県の顔として、ふさわしいシンボル性を備える、観光・交流の拠点として、新たな賑わいを創出し、観光振興を一層促進する施設として活用していくことが必要である。

コンセプト

・有用植物園を中心とする自然食×自然体験の展示交流空間

高知県には多様な有用植物が存在しており、有用植物＝地域資源と捉えて香南市の自然を活用することが可能である。また現代人、特に女性の興味は、美容、健康、食が中心で、自然に癒しを求めている。そこで自然食、自然体験をテーマとした施設を提案する。

展示交流空間としては、三宝山の眺望を生かした整備された外部空間を中心とし、内部空間は周囲に対して「開かれた」現代的な施設とする。

応募作品



図1. 三宝山プレゼンボード 1



図2. 三宝山プレゼンボード 2

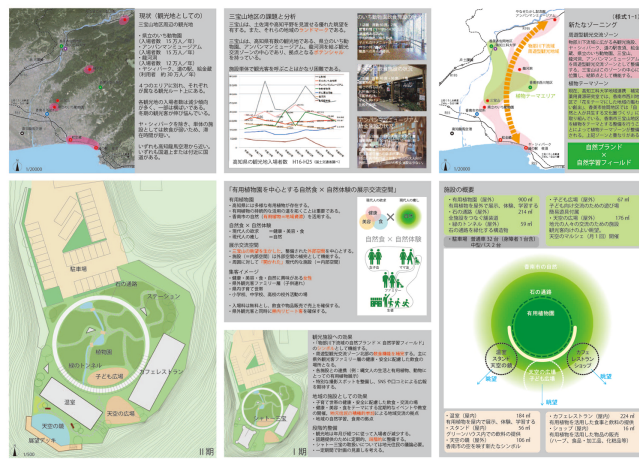


図3. 三宝山プレゼンボード 3



図4. 三宝山プレゼンボード 4

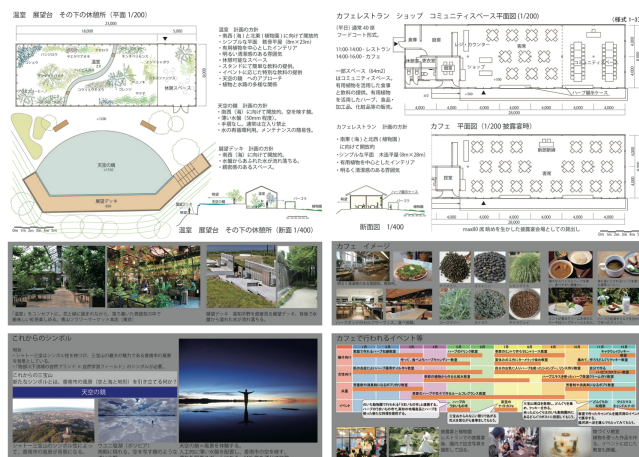


図5. 三宝山プレゼンボード 5

宮島口まちづくり国際コンペティション

コンペ趣旨

広島県廿日市市宮島口地区は、世界文化遺産・厳島神社を擁する厳島（通称、宮島という）の対岸に位置しており、国内外から年間400万人の人が訪れている宮島の玄関口となっている。廿日市市では、この地区を、観光客への歓迎空間の形成やアメニティの高い環境づくりを進め、市のシンボリックなゾーンとし「世界の人々を迎えるにふさわしいまち」へとつくり変えたいと考えている。

コンセプト

・歩行者中心のまち

JR 宮島口駅から旅客ターミナルまでの道路を、歩行者専用とすることで宮島口地区全体を「歩行者中心のまち」とする。歩行者と自動車の動線を確実に分けることによって、観光客などの初めての利用者にとっても分かりやすく、自然に歩きやすいまちと滑らかな自動車交通を目指す。さらに国道2号線をくぐった後、海まで続く緩やかなスロープによって、そこを利用する歩行者は宮島とのつながりを感じることができる。ここは人々が留まり、様々な活動を誘発する場所ともなる。

・波紋の拡がり

Phase1. 散在する波紋

各交通の結節点の中心である大拠点（旅客ターミナル、JR 宮島口駅、広電宮島口駅等）から周辺に向かって波紋が拡がる。つながりは直線的。

Phase2. 多数の波紋

さらに人々が留まる中拠点(バスターミナル、商店街各店舗、旅客ターミナル前広場、緑地・・・・・・)から波紋が拡がる。

Phase3. 波紋のつながり

拠点と拠点のあいだに新たに人々が留まるきっかけとなる小拠点をつくる。繁忙期にはスタンドなどの仮設店舗を設置したり、イベント時にはステージ屋根として利用する。波紋はあるリズムでつながっている。

応募作品

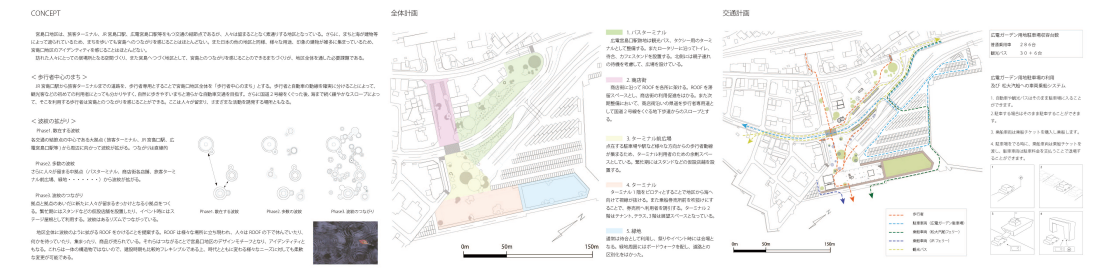
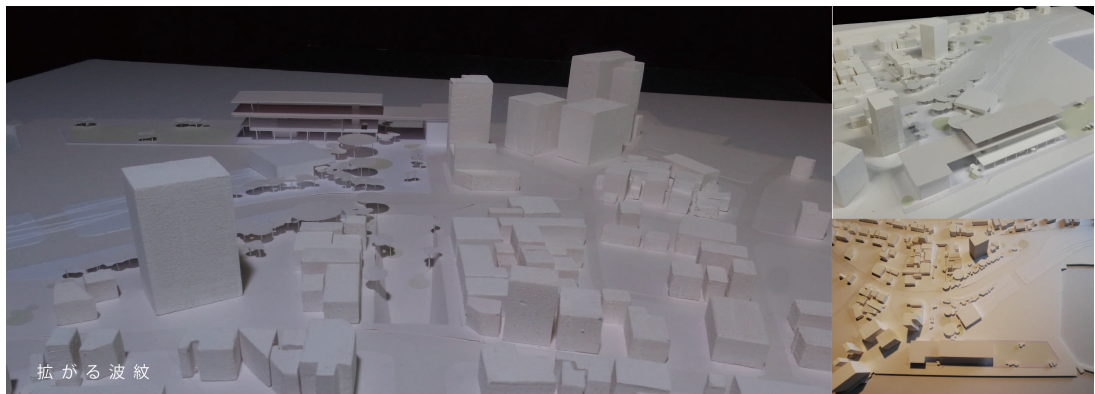


図6. 宮島ロプレゼンボード1枚目



図7. 宮島ロプレゼンボード2枚目

高松市屋島山上拠点施設 基本設計業務プロポーザル

コンペ趣旨

香川県高松市は、瀬戸内海国立公園並びに史跡及び天然記念物に指定されるなど、自然や景観、歴史文化等の魅力に満ちた屋島を、市民の誇れるシンボルとして再生させることを目的として屋島山上拠点施設の整備を計画している。

屋島山上拠点施設は、山上の景観に調和し、屋島の歴史や文化的価値を象徴する優美な外観とともに、来訪者のための諸機能が、高い構想力によってデザインされることが求められる。すなわち、その建物としての魅力や存在感が、高松市域にとどまらず、備讃瀬戸はもとより、広く瀬戸内海一円に及び、まさに瀬戸内海国立公園のシンボルとして、輝き続けるものとなることが期待されている。

コンセプト

屋島に冠する暈 —halo— として円環状のカタチからなる建築を提案する。

敷地に馴染む自由曲線の平面からなる 1 階、円環状の空中回廊から瀬戸内の風景をパノラマのように体感できる 2 階、展望テラスとして瀬戸内の風景が暈から垣間見える 3 階、この 3 つのフロアから暈 —halo— は構成されている。

・開かれた地上広場

一部ピロティとなる 1 階は、カフェ、ショップとホール、エントランスなどを含んだ二つのボリュームとその間の広場より構成される。自由曲線によりかたどられた平面は不整形な敷地になじみ、周囲の緑地と緩やかなつながりを生む。広場はアートスペース、イベント等にも利用できる。

・パノラマのある円環状の展示室（エキシビションスペース）

円環状の展示スペースとなる 2 階空中回廊。歴史的背景や自然環境に恵まれた屋島をテーマとした展示を行う。展示品とともに回廊を巡ると、広場の緑地から、四国の山々、高松市街地、高松港、瀬戸内海の島々へとパノラマのように移り変わっていく、展示を見終えたころにはまた屋島の風景へと帰ってくる。

・屋根越しに望む瀬戸の島々と円環に切り取られた瀬戸の景色（空、海、島々）

三階展望スペースからは屋根越しに瀬戸の島々を望むことができる。屋内スペースでは、周囲を巡る屋根によって楕円形に切り取られた眺望が風景に奥行を与える。屋外テラスへと歩みを進めるうちに屋根で遮られた眺望は広がりを見せ、瀬戸の島々が眼前に迫る。

応募作品



・ halo ・
暈

メサの稜線を維持しながら冠として暈 -halo- を浮かべる



図8. 屋島プレゼンボード1枚目

屋島に冠する暈 -halo-

屋島に冠する暈 -halo- として同稜線の方たちからなる建築を提案する。
敷地と屋島の自然曲線の平面からなる1層、円筒状の空中回廊から屋戸内の風景をパスタのように体験できる2層、縁取ラスタとして屋戸内の風景が響から垣間見える3層、この3つのフロアから暈 -halo- は構成されている。

暈(1) 2 - 本島からなる暈を通して天候や月を透光とす。太陽光を自然のまわりかたに照らす光学的暈、パース、天候や月を自然の光で、空の暈によって反響、暈を透けて見える。

● 敷地面積 75,000
● F1 4,100
● F2 3,100
● F3

開かれた地上広場
一帯がパティオとなる1層は、カフェ、ショップとホール、エンタランスなどを備えた二つのボリュームとその間の広場より構成される。自由循環により開放された平面は非対称的な敷地にならぬ、非対称的な敷地と建物のなつなりを自然に反映したアートパースペクティブな構成である。

パノラマのある円筒状の展示室(エキシビジョンスペース)
円筒状の展示スペースとなる2層は、展示室や休憩室に集まった展示をテーマとした展示を行う。展示室とともに休憩室を設け、広場の縁から、自然の山々、海を眺め、展示室の奥へとパノラマのように眺望を眺めていく。展示室を眺めることは自然の風景を眺めることである。

屋島に冠した空の屋戸の息々と切り取られた屋戸の景色(空、海、島々)
三層は展示スペースから垣間見られる屋戸の息々と切り取られた屋戸の景色(空、海、島々)。

三層展示スペースから垣間見られる屋戸の息々と切り取られた屋戸の景色(空、海、島々)
三層展示スペースから垣間見られる屋戸の息々と切り取られた屋戸の景色(空、海、島々)。

図9. 屋島プレゼンボード2枚目